



本会記事

第37回プラズマ・核融合学会年会 シンポジウムおよび招待講演の募集

第37回プラズマ・核融合学会年会は、2020年12月1日(火)–12月4日(金)愛媛大学城北キャンパスおよび松山市教育会館で開催されます。一般講演については学会誌6月号で募集する予定ですが、これに先立ちまして、シンポジウムと招待講演を公募いたします。

一昨年の第35回年会から、領域制(基礎、応用、核融合プラズマ、核融合炉工学)が導入されました。昨年同様、シンポジウムや招待講演については、これらの領域からの企画分と一般公募分で構成します。さらに、テーマに沿った講演で構成するオーガナイズドセッションも継続いたします。応募内容を検討される際にご参考にしていただくと幸いです。

領域で企画するシンポジウム・招待講演・およびオーガナイズドセッション

○シンポジウム

「離散と連続状態を移り変わるプラズマの物理と研究手法」 [基礎]

「大気圧近傍におけるプラズマ生成とその応用」 [応用]

「高温超伝導技術が切り拓く新たな核融合研究展開」 [核融合プラズマ]

○招待講演(タイトルは仮題)

「Event Horizon Telescope時代のブラックホール天文学：輻射輸送・磁気流体・プラズマ微視的過程研究の現状と将来展望」

川島朋尚(国立天文台天文シミュレーションプロジェクト) [基礎]

「輸送モデルと二階微分量に基づく正則化を用いた不良設定環境下におけるパラメータ推定」

西澤敬之(独マックスプランク研究所) [基礎]

「様々なプラズマ環境への応用に向けたジャイロ運動論PIC法の開発」

森高外征雄(核融合研) [編集委員会推薦][基礎]

「時空間制御された電場・プラズマ場での水・タンパク質・生体の状態変化」

高木浩一(岩手大) [応用]

「原料を同期間導入した変調熱プラズマでの原料蒸発とナノ粒子生成モデリング」

田中康規(金沢大) [応用]

「企業による核融合開発と日本での可能性」

浅井朋彦(日大) [編集委員会推薦][核融合プラズマ]

「JT-60SA統合コミッションングの進捗」

井手俊介(QST) [核融合プラズマ]

「JT-60SAコミッションングにおける機器動作の検証」

森山伸一(QST) [核融合プラズマ]

「核融合原型炉超臨界CO₂二次冷却系におけるトリチウム挙動」

片山一成(九大) [核融合炉工学]

「重み付きPIC法を用いた蒸気遮蔽シミュレーションによる過渡熱負荷時の金属壁損耗量予測」

伊庭野健造(阪大) [編集委員会推薦][核融合炉工学]

○オーガナイズドセッション：テーマに沿った一般講演で構成(招待講演を含む場合あり)]

・実験室プラズマ・天文プラズマ連携セッションー加熱・輸送・乱流現象を中心に [基礎]

・データ駆動プラズマ科学ーインフォマティクスで発見を加速するー [基礎]

・プラズマと生体の相互作用 [応用]

・プラズマプロセスの高精度制御 [応用]

・高専プラズマネットワーク [核融合プラズマ]

・トリチウム [核融合炉工学]

備考：各オーガナイズドセッションの趣旨はHPを参照ください。 http://www.jspf.or.jp/jspf_annual2020/organizedsession.html

1. シンポジウムの募集

年会のシンポジウムは、最近の話題に対し、異なる角度からの講演又は討論により今後の課題を抽出するために開くものです。そのため、目的、意義などを明確にし、最後に十分な質疑討論の時間を確保するように考慮して応募してください。分野に関しては、一般講演分野細目を参照ください。採否は、応募内容に基づき、学会年会運営委員会の審議により決定されます。なお、採択にあたって、プログラムの変更をお願いする場合があります。

・シンポジウムの時間枠は120分です。質疑討論時間が十分に取れるように配慮してください。

・応募数がプログラム枠を越えた場合には不採択となる場合もあります。あらかじめご了承ください。

・採択されたシンポジウムの講演者へは、事務局から講演および予稿執筆の依頼状を発送します。予稿のページ数はA4で2ページ以内、締切は一般講演と同じく2020年11月13日(金) 昼12時です。ご提出いただいた予稿の著作権はプラズマ・核融合学会に帰属します。

・発表言語：日本語、もしくは英語

・発表資料および講演予稿：日本語、もしくは英語

応募期限：2020年6月12日(金) 昼12時

応募方法： web ページから提案書書式をダウンロードいただき、記入の上、事務局へお送りください。

応募必要事項：

1. シンポジウムタイトル
2. 講演分野（一般講演分野細目から主分野1件、また必要であれば、さらに従分野（主分野に次いで関係の深い分野）を1件（合わせて2件まで））
3. 世話人 氏名・連絡先・会員番号
4. プログラム案（タイトルおよび講演者、仮で結構です）：「趣旨説明」と、「総合討論（最低15分）」の時間を必ず設けてください。
5. シンポジウムの要旨：A4版1ページ（1200字程度で、目的、意義、内容がわかるように簡潔にお書きください。また、キーワードを3つつけてください。）
6. 参加見込み人数（あらかじめ予想がつく場合は記入してください。）

2. 招待講演の募集

最近のトピックスや顕著な成果に関する招待講演を応募ください。

分野に関しては、以下に示す一般講演分野細目を参照ください。応募書類のabstract欄には、達成された具体的研究成果を記述してください。また、可能な限り、推薦人1名と推薦文を提出してください。採否は、応募abstractに基づき、学会年会運営委員会で決定します。このとき、推薦文を参考にするとともに、推薦人に内容をお伺いすることもあります。

なお、採択された招待講演は年会運営委員会の判断でオーガナイズドセッションに位置付けられる場合があります。

・招待講演の採択は、講演に関連する内容を論文にまとめ、『Plasma and Fusion Research』またはプラズマ・核融合学会誌への投稿を条件としています。採択された招待講演の論文原稿提出期限は12月末とします。

・講演時間は発表25分+質疑応答5分の計30分を予定しています。

・講演者へは、事務局から講演および予稿執筆の依頼状を発送します。予稿のページ数はA4で2ページ以内、締切は一般講演と同じく2020年11月13日(金) 昼12時です。ご提出いただいた予稿の著作権はプラズマ・核融合学会に帰属します。

・発表言語：日本語、もしくは英語

・発表資料および講演予稿：日本語、もしくは英語

応募期限：2020年6月12日(金) 昼12時

応募方法： web ページから提案書書式をダウンロードいただき、記入の上、事務局へお送りください。

応募必要事項（1-7は必須、8は任意）

1. 講演題目
2. 講演者（連名者を含む）
3. 所属

4. 会員のかたは会員番号

5. 講演分野（一般講演分野細目から主分野1件、また必要であれば、さらに従分野（主分野に次いで関係の深い分野）を1件（合わせて2件まで））

6. abstract：1200字程度、キーワードを3つまでつける。

7. 連絡先（名前、住所、電話番号、Fax、E-mail アドレス）

8. 推薦者と推薦文

一般講演分野細目（記載例：主分野A5、従分野B1）

A. 基礎

A1 プラズマ基礎・放電物理

A2 スペースプラズマ（宇宙プラズマ・天文）

A3 高エネルギー密度科学・量子ビーム

A4 非平衡極限プラズマ

A5 波動、不安定性、流れ、加速

A6 プラズマ計測

A7 原子分子過程、表面素過程

A8 非中性プラズマ・ダストプラズマ

A9 プラズマ源・イオン源

A10 データ駆動プラズマサイエンス

A11 その他

B. 応用

B1 産業用のプラズマ源とモニタリング

B2 成膜・表面処理

B3 エッチング

B4 ナノテクノロジー

B5 ライフサイエンス

B6 環境・エネルギー

B7 新応用・融合分野

B8 その他

C. 核融合プラズマ

C1 平衡・安定性

C2 閉じ込め・輸送・乱流

C3 加熱・電流駆動・高エネルギー粒子物理

C4 スクレイプオフ層・ダイバータ物理

C5 定常運転・制御

C6 計測・診断

C7 高ベータ・コンパクト系の物理

C8 慣性核融合・高エネルギー密度プラズマ

C9 その他

D. 核融合炉工学

D1 炉設計

D2 マグネット

D3 ブランケット（ブランケット材料含む）

D4 ダイバータ・プラズマ対向機器（ダイバータ材料含む）

D5 加熱・電流駆動システム

D6 核融合燃料システム

D7 核融合炉の安全性・保守性

- D8 核融合炉の経済性・社会受容性
- D9 ニュートロニクスと中性子源
- D10 計測・制御
- D11 その他

E. オーガナイズドセッション

- E1 実験室プラズマ・天文プラズマ連携セッションー
加熱・輸送・乱流現象を中心に [基礎]
- E2 データ駆動プラズマ科学 -インフォマティクスで
発見を加速する- [基礎]
- E3 プラズマと生体の相互作用 [応用]
- E4 プラズマプロセスの高精度制御 [応用]
- E5 高専プラズマネットワーク [核融合プラズマと応
用の合同企画]
- E6 トリチウム [核融合炉工学]